



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名	核酸複合体沈澱試薬 SR-8050
会社名	倉敷紡績株式会社
住所	〒572-0823 大阪府寝屋川市下木田町14-30 クラボウ先進技術センター2F
担当部門	バイオメディカル部
電話番号	072-820-3079
ファックス番号	072-820-3095
推奨用途及び 使用上の制限	植物DNA分離用試薬キットの核酸複合体沈澱試薬
整理番号	SDS_SR-8050GHS_02J

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分5
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	皮膚腐食性及び刺激性	区分3
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1 (心臓、血液系)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
環境に対する有害性	水性環境有害性(急性)	区分1
	水性環境有害性(慢性)	区分1

*危険有害性の大きさ：区分は数字の小さいほど危険性／有害性が高い。

*上に記載がない危険有害性は、「分類対象外」または「分類できない」である。

GHSラベル要素

記号



注意喚起語 危険

危険有害性情報

H303 飲み込むと有害のおそれ
H314 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
H341 遺伝性疾患のおそれの疑い
H351 発がんのおそれの疑い
H361 生殖能力または胎児への悪影響のおそれの疑い
H362 授乳中の子に害を及ぼすおそれ
H370 肝臓、腎臓の障害
H335 呼吸器刺激を起こすおそれ、または昏睡およびめまいを起こすおそれ
H372 長期にわたる、または、反復ばく露による中枢神経系、腎臓、肝臓、呼吸器の障害
H400 水生生物に非常に強い毒性
H410 長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

P202 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P261 粉塵／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。

P280 保護手袋及び保護眼鏡／保護面を着用すること。

P264 取り扱い後はよく手を洗うこと。

P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

P273 環境への放出を避けること。

P263 妊娠中／授乳期中は接触を避けること。

応急措置

P305+P351+P338

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P305+P310 眼に入った場合：直ちに医師に連絡すること。

P301+P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

P301+P330+P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。

P306+P361 衣服にかかった場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。

P306+P353 衣服にかかった場合：皮膚を流水／シャワーで洗うこと。

P308+P313 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

P391 漏出物を回収すること。

保管

P403 換気の良い場所で保管すること。

P405 施錠して保管すること。

廃棄

P501 内容物/容器を国際法律/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄処理すること。
許可を持った産業廃棄物処理業者に委託して処理をすること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

成分	官報公示整理番号			
	CAS番号	化審法	安衛法	含有量 (%)
ヘキサデシルトリメチルアンモニウムブロミド【PRTR 2:85号】	57-09-0	2-184	——	0.5-2
水	7732-18-5	——	——	98 - 99.5
化学式	CH ₃ (CH ₂) ₁₅ N(CH ₃) ₃ Br (57-09-0) , H ₂ O (7732-18-5)			

※ 原則として1%以上含有する成分を記載しています。

注：化学物質名称の後の【】の中に以下の情報を記載しています。（記載のない場合は非該当です。）

「PRTR 特1」は、化学物質管理促進法 特定第一種指定化学物質

「PRTR 1」は同法 第一種指定化学物質

「PRTR 2」は同法 第二種指定化学物質

「毒劇」は毒物劇物取り締まり法の通知対象物を指します。

「安衛通知」は労働安全衛生法の通知対象物を指します。

なお、化学物質管理促進法に該当する物質の場合、同法別表中の政令番号を併記しています。

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が止まっている場合や呼吸が弱いときは、衣類を緩め呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。医師の手当を受けること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服を脱ぐ。石けんと多量の水で洗い流す。皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
眼に入った場合	直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。コンタクトレンズをしている場合は、可能なら外す。その後も洗浄を続けること。速やかに医師の診断/手当てを受けること。
飲み込んだ場合	直ちに口中を水でよく洗浄する。意識のない場合には、口から何も与えてはならないし、はかせようとしてもならない。嘔吐がある場合には頭を横向きにする。直ちに医師の手当てを受ける。

応急措置をする者 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。
の保護

5. 火災時の措置

消火剤	初期消火には炭酸ガス、粉末消火器、泡消火器等を使用する。
使ってはならない消火剤	なし
火災時の措置に関する 特有の危険有害性	
特有の消火方法	消火作業は、可能な限り風上から行う。漏出した物質や消火用水等が、河川等に排出されないように配慮する。 燃焼、加熱等により有害ガス(一酸化炭素、窒素酸化物、ハロゲン化合物等)が精製するため、必ず呼吸保護具を着用する。関係者以外は速やかに安全な場所に退去させる。
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置	作業の際には適切な保護具を着用する。(「8. ばく露防止及び保護措置」の項 参照)
環境に対する注意事項	薬品が河川等に排出されないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	漏洩した薬品を適切な方法で回収したのち、漏洩箇所を大量の水で洗い流す。
二次災害の防止策	付近の着火源となるものを速やかに取り除き消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。 取り扱った後、手を洗うこと。
(局所排気・全体換気)	適切な換気がされている場合のみ使用する。
注意事項	「8. ばく露防止及び保護措置」の項 参照
安全取扱い注意事項	「10. 安定性及び反応性」の項 参照
安全な保管条件	直射日光を避けること。 容器を密栓して冷暗所に保管する。
	毒物及び劇物取締法に従う。
安全な容器包装材料	十分な強度を有するプラスチックを使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化または局所排気装置を設置する。取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
管理濃度	設定されていない
許容濃度	日本産業衛生学会：設定されていない ACGIH(TLV)：設定されていない
保護具	
呼吸用保護具	適切な呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	適切な手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡または安全ゴーグルを使用する。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用する。
適切な衛生対策	使用中は飲食や喫煙をしない。 眼に入らないようにする。 皮膚に触れないようにする。 飲食物から遠ざける。 適切な産業衛生および安全対策のもとに取り扱う。

9. 物理的及び化学的性質

外観	
色	無色透明
臭い	なし

臭いのしきい(閾)値	データなし
pH	8.0 ; 25℃
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	引火性はない
蒸発速度	データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	データなし
蒸気圧	データなし
相対蒸気密度(空気=1)	データなし
比重(水=1)	データなし
溶解度(対水)	易溶
n-オクタノール／水分配係数 (log Pow)	データなし
自然発火温度	自然発火はしない
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	通常の条件では安定である。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、窒素酸化物、臭化物

11. 有害性情報

急性毒性	急性 経口 LD50 ラット: 410 mg/kg (RTECS (2006)) 区分4。 含有量が2%の為、20,500mg/kgとなり区分外であるが、急性毒性が区分4を示すため、区分5とする。 (ヘキサデシルトリメチルアンモニウムブロミドについて) 経皮 データなし (吸入:蒸気)データなし (吸入:粉塵、ミスト)データなし
皮膚腐食性及び刺激性	30分、1時間、2時間適用した試験でマウスを用いた皮膚刺激性試験の結果、「中程度の刺激を有する」(CERI/NITE有害性評価書No. 206 (2005) より区分2。含有量が2%の為、区分3とする。 (ヘキサデシルトリメチルアンモニウムブロミドについて)
眼に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験のデータで、「強度の刺激性」を有するため区分2A。含有量が2%の為、分類できないとする。 (ヘキサデシルトリメチルアンモニウムブロミドについて)
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	CERI・NITE有害性評価書 No. 206 (2005) の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞in vivo 変異原試験なし、体細胞in vivo変異原性試験(染色体異常試験)で陽性、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験なし、であることから区分2とする。
発がん性	データなし。
生殖毒性	CERI・NITE有害性評価書 No. 206 (2005) の記述から、マウス及びラットの催奇形性試験において、親動物での一般毒性が発現する用量で、生存出生児数の減少、出生3日後での生存率の減少がみられていることから区分2とする。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトについては、「血圧の不安定及び心臓虚血、メトヘモグロビン血症」(CERI・NITE有害性評価書No. 206 (2005))等の記述があることから、心臓、血液系が標的臓器と考えられた。以上より、分類は区分1(心臓、血液系)とする。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データなし
吸入性呼吸器有害性	データなし

12. 環境影響情報

生体毒性

残留性・分解性	急速分解性がない(BODによる分解度：0% (既存化学物質安全性点検データ))
生体蓄積性	生物蓄積性がある。BCF=741 (既存化学物質安全性点検データ)
土壤中の移動性	情報なし
水生環境有害性	水生環境急性有害性：藍藻類(ミクロシスティス)の96時間EC50=30 μ g/L(環境省リスク評価第3巻、2004)他から区分1とする。 水生環境慢性有害性：急性毒性が区分1である。 これらより区分1とする。

13. 廃棄上の注意

可燃性溶剤と共にアフターバーナー・スクラバーを具備したハロゲン対応型焼却炉の火室へ噴霧し高温で焼却する。自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を添えて、処理を委託する。 廃棄時に該当する法規【廃棄物処理法：産業廃棄物(廃アルカリ)、水質汚濁防止法：生活環境項目、下水道法：下水の排除の制限】

14. 輸送上の注意

国際規制 航空輸送はIATA規則の規定及び海上輸送はIMDGの規則に従う。

国連番号 —

国連分類 —

容器等級 —

国内規制 陸上輸送：消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送：船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送：航空法に定められている運送方法に従う。

————— 海上輸送もしくは航空輸送を行う場合は以下の情報を輸送会社にお渡し下さい。 —————

IMDG

Not regulated as dangerous goods.

IATA

Not regulated as dangerous goods.

15. 適用法令

化審法

第一種 特定化学物質： 該当しない

第二種 特定化学物質： 該当しない

監視化学物質： 該当しない

優先評価化学物質： 該当しない

労働安全衛生法

危険性物質 引火性 該当しない

危険性物質 引火性ガス 該当しない

危険性物質 酸化性 該当しない

危険性物質 爆発性 該当しない

危険性物質 発火性 該当しない

有害性物質 発がん性 該当しない

特化則 第一類： 該当しない

特化則 第二類： 該当しない

特化則 第三類： 該当しない

有機則 第一類： 該当しない

有機則 第二類： 該当しない

有機則 第三類： 該当しない

通知対象物質:	該当しない
表示対象物質:	該当しない
毒物及び劇物取締法	
法 特定毒物:	該当しない
施行令 特定毒物:	該当しない
法 毒物:	該当しない
施行令 毒物:	該当しない
法 劇物:	該当しない
施行令 劇物:	該当しない
施行令32条2 興奮、幻覚又は麻酔の作用を有する物:	該当しない
施行令32条3 発火性又は爆発性のある劇物:	該当しない
毒物除外:	該当しない
劇物除外:	該当しない
施行令 製剤:	
消防法	
第1類 酸化性固体:	該当しない
第2類 可燃性固体:	該当しない
第3類 自然発火性物質及び禁水性物質:	該当しない
第4類 引火性液体:	該当しない
第5類 自己反応性物質:	該当しない
第6類 酸化性液体:	該当しない
指定可燃物:	該当しない
貯蔵量記録:	該当しない
化学物質管理促進法 (PRTR法)	
特定第一種指定物質	該当しない
クラス1指定物質:	該当しない
クラス2指定物質:	No. 85 (法第2条第3項、施行令第2条別表第2)
船舶安全法	該当しない
航空法	該当しない
海洋汚染防止法	該当しない
高圧ガス保安法	該当しない
火薬類取締法	該当しない
大気汚染防止法	該当しない

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価について完全性を保証するものではありません。危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。注意事項は当製品についての通常の取り扱いを対象にしたものであって、それ以外については、ご使用者の責任において安全対策を実施の上お取り扱い願います。

本SDSは、JIS Z7253:2012に基づく日本化学工業協会のSDS作成指針に従って作成したものです。

尚、弊社ホームページ(<https://www.kurabo.co.jp/bio>)に最新版の安全データシートを掲載しています。

作成部門:倉敷紡績㈱ パイオメディカル部